発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査報告書

（平成 23 年度）

平成 25 年 9 月 1 日

山梨県立こころの発達総合支援センター

はじめに

山梨県立こころの発達総合支援センターは、障害者相談所に設置されていた「発達障害者支援センター」と児童相談所内に併設されていた児童精神科の診療所である「子どもメンタルクリニック」を統合する形で、平成 23 年 4 月に開設された。今後センターを中心とした発達障害者支援のためのシステムが軌道にのるにつれ、幼児期の発達障害児の把握と支援、医療との連携のあり方に変化が見られることが予想される。このことから、センターの開所時点での発達障害児の把握の実態を調査しておくことは今後のために有用であると考えられる。また県内居住地域による発達障害児の実態把握の状況を比較することで、地域の特性に即した母子保健システムを構築していくための指標になると思われる。

山梨県では、多くの市町村ですでに精力的な乳幼児健診が行われ、発達障害児の把握がなされている。しかし、就学後に初めて医療機関を訪れる児も依然として多い。そのため、乳幼児期から早期診断までのシステムと技術についてはまだ検討の余地がある。発達の遅れや偏りを有する児に対して早くから適切な診断と支援を保障するには、健診項目の見直し、および複数の健診を用いた縦断的な観察システムの構築、さらに診断後の支援システムと技術の開発をあわせて行う必要がある。

本調査では、山梨県内の 3 つの市を抽出し、それぞれの市における発達障害児の発生とその把握に関する実態調査を行った。これにより、市ごとの発達障害の把握の特徴を知り、システム構築に役立てるとともに、センター設立の前後でのデータの変化を検討する資料とすることが目的である。

方　法

調査対象は、大月市、山梨市、南アルプス市 3 市に居住しており、平成 15 年 4 月 2 日～平成 16 年 4 月 1 日に生まれたすべての子どもとした。

調査は、平成 23 年 12 月から平成 24 年 2 月にかけて行われた。上記 3 市のそれぞれについて、乳幼児健診を担当する母子保健担当（以下、「市母子保健担当」）、市内のすべての幼稚園・保育所と通園できる範囲の知的障害児通園施設（以下、これらをまとめて「幼稚園・保育所等」）、公立小学校と通学できる範囲の特別支援学校（市外も含む。以下、これらをまとめて「学校」）、および通院できる範囲の医療機関（以下、「医療機関」）に、郵送でアンケート（資料）を配布した。幼稚園・保育所等については卒園時に在籍していた園児とし、学校については調査時点での在籍児童とした。これにより転園、転校による重複を避けた。医療機関については、該当する誕生日でその医療機関に診療録があるすべての子どもを対象としたが、個人が特定できる情報は求めず診断名と人数のみを質問したため、複数の医療機関に重複して受診している子どもがいた場合、それを特定できない。

調査内容は、①対象となる誕生日の子どもの全数、②①のうち「発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない)」として把握している子どもの数、③②のうち「医療機関の受診歴がある」ことを把握している子どもの数、④③のうち、「保護者に診断名が伝えられている」ことをその機関が把握している子どもの数とその診断名、⑤「医療機関で障害があると診断されているが該当の機関では障害があると考えていない」子どもの数とその診断、である。「発達の遅れや偏りがあると把握されているのに医療機関受診をしていない理由」、「診断がついているのに該当の機関では障害があると考えていない理由」についても、自由記述で回答を依頼した。

集計にあたっては、アスペルガー症候群、自閉症、自閉性障害など広汎性発達障害の下位分類の診断名がついている場合はすべて「広汎性発達障害（PDD)」として統一した。また複数の診断名がついている場合には、①広汎性発達障害、②注意欠如・多動性障害（ADHD)、③学習障害（LD)、④精神遅滞、⑤その他の発達障害の順に優先順位をつけ、1 人の子どもにつき 1 つの診断名とした。

なお、医療機関のデータについては複数の医療機関を同一の子どもが受診している可能性があるため、全体数の集計は行わず、発達障害の子どものうち保護者に診断名が告知されている子どもの割合のみを本報告に含めた。

結　果

市ごとの結果を以下に示す（表 1，図 1)。得られた回答の中から「記録がなく不明」などの無効回答を除いた数を用いて回収率を計算した。知的障害児通園施設に通っている子どもについては幼稚園、保育園に通っている子どもと合算して示した。なお、3 市とも母子保健担当の回収率は 100%であった。

１．大月市

回収率は、幼稚園・保育所等で 86.7%、学校で 94.7%であった。

市母子保健担当、幼稚園・保育所等、学校において把握している「発達に何らかの遅れや偏りのある子ども」は、それぞれ 9.6%、9.7%、6.1%であった。また、発達に何らかの遅れや偏りがあるために医療機関を受診していると把握されている子どもは、市母子保健担当で対象児全体の 7.5%、幼稚園・保育所等で 6.3%、学校で 4.6%であった。学校で診断を把握されている子どもの診断の内訳は、PDD3 名、ADHD1 名、精神遅滞 1 名であった。医療機関における調査では、医療機関を受診している子どものうち、保護者に診断名を告知されているのは 92.9%であった。

２．山梨市

回収率は、幼稚園・保育所等で 66.7%、学校で 100%であった。

市母子保健担当、幼稚園・保育所等、学校において把握している「発達に何らかの遅れや偏りのある子ども」は、それぞれ 28.4%、13.5%、9.0%であった。また、発達に何らかの遅れや偏りがあるために医療機関を受診していると把握されている子どもは、市母子保健担当で対象児全体の 2.2%、幼稚園・保育所等で 4.1%、学校で 3.6%であった。学校で診断を把握されている子どもの診断の内訳は、PDD5 名、ADHD2 名、精神遅滞 4 名、てんかん 1 名であった。医療機関における調査では、医療機関を受診している子どものうち、保護者に診断名を告知されているのは 76.5%であった。

３．南アルプス市

回収率は、幼稚園・保育所等で 73.1%、学校で 100%であった。

市母子保健担当、幼稚園・保育所等、学校において把握している「発達に何らかの遅れや偏りのある子ども」は、それぞれ 19.0%、6.3%、5.8%であった。また、発達に何らかの遅れや偏りがあるために医療機関を受診していると把握されている子どもは、市母子保健担当で対象児全体の 2.3%、幼稚園・保育所等で 4.5%、学校で 3.8%であった。学校で診断を把握されている子どもの診断の内訳は、PDD12 名、ADHD4 名、LD1 名、精神遅滞 3 名、肢体不自由 2 名、てんかん 1 名であった。医療機関における調査では、医療機関を受診している子どものうち、保護者に診断を告知されているのは 88.4%であった。

考　察

今回の調査は、発達障害の幼児期から学齢期の支援に関わる関係機関において、発達に何らかの遅れや偏りなどの問題がある子どもがどの程度把握されているかの実態を調べたものである。山梨県では、他の先進的な地方自治体と比して、発達障害の早期発見と早期支援はまだ十分に行われているとはいえない。このような段階では、発達障害の早期発見に重要な枠割を果たす関係機関の職員の中でも、発達障害に関する知識と技術において多少の差異があると考えられる。そこで今回の調査では、発達障害の早期発見に関して県内でも比較的意欲的に行っていると思われる 3 つの市を抽出し、さらに発達障害の早期発見・早期支援に関わる関係機関として市母子保健担当、幼稚園・保育所等、学校、および医療機関を対象として、発達障害および発達障害が疑われる子どもたちの把握に関する実態を調べた。

市母子保健担当の把握の割合は、大月市で 9.6%、山梨市で 28.4%、南アルプス市で 19.0%

であり、市によってかなり違いがあった。このことから、地域ごとに発達の遅れや偏りに対する感度に大きな違いがある可能性が示唆された。一方、発達の問題に関して医療機関を受診している割合は、大月市で 7.5%、山梨市で 2.2%、南アルプス市で 2.3%であり、大月市で一番高かった。さらに、医療機関で保護者に診断が告知されている割合も大月市が最も高かった。大月市は、市母子保健担当の段階では発達に遅れや偏りがある子どもの把握率は比較的低いものの、把握した子どもを医療機関につなげて診断に結びつけることは高率に行われていると思われた。他の 2 つの市は、市母子保健担当の段階では高率で把握するものの、医療機関への受診につながる割合は低い結果となった。このように、市によって最初の把握の割合や受診へのつなぎの割合に違いがあることから、発達障害の早期発見・早期支援の充実を図るための強化のポイントが各市の特徴に応じて異なることが示された。

幼稚園・保育所等における発達の遅れや偏りの把握の割合は、大月市で 9.7%、山梨市で 13.5%、南アルプス市で 6.3%であった。ここでも地域による差がみられた。また、医療機関を受診している子どもに関する幼稚園・保育園の把握の割合は、大月市で 6.3%、山梨市で 1.4%、南アルプス市で 4.5%であった。山梨市と南アルプス市では、発達に遅れや偏りのある子どもの把握率に関して市母子保健担当と幼稚園・保育所等との間で大きな開きがあり、幼稚園・保育所等での把握率がかなり低かった。これらの市については、幼稚園・保育所等の職員を対象として、発達障害に関する啓発研修を強化していく必要があると思われた。

学校における発達の遅れや偏りの把握の割合は、大月市で 6.1%、山梨市で 9.0%、南アルプス市で 3.8%であった。今回の調査は通常学級に限らず、特別支援学校および特別支援学級も含めたすべての子どもを対象としている。平成 24 年 12 月に文部科学省より発表された「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」の学年別集計では、「知的発達に遅れはないものの学習面、各行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒」は、小学校 2 年生で 8.2%であった。これは、特別支援学級および特別支援学校に在籍する生徒を含まない数値である。今回の調査の結果と文部科学省の調査結果を比較してみると、今回調査を行ったすべての市の学校において、発達に遅れや偏りのある子どもがまだ見逃されている可能性があると思われた。

以上のように、発達に何らかの遅れや偏りがある子どもの把握の実態は、市によってとの特徴に大きな差異があることがわかった。これらの特徴をふまえ、今後は市ごとに乳幼児健診とその後の支援方法、幼稚園・保育所等における障害児保育のあり方について見直し、地域の支援体制を強化していく必要である。また、幼稚園・保育所等および学校の職員に対して、発達とその障害に関する啓発を行う必要があることが示された。さらに、就学に際しての母子保健担当および幼稚園・保育所等から学校へのつなぎが不十分であることも考えられる。サポートブックなどのツールを開発するなど、縦断的な機関移行に際してのつなぎの体制を強化していく必要があると思われる。

最後に、全体として医療受診に結びついている割合が高いとはいえないことが指摘される。発達障害では、保護者への支援が不可欠である。保護者は、子育ての主体であると同時に、わが子に障害があることで強い心理的負荷を慢性的に受け続ける状態におかれる。その意味で、精神医学および臨床心理学的な視点で診断と支援方針立案を行うことは、きわめて重要である。一方、この時期の保護者は、子どもの発達に気になることはあったとしても、それが医療的に診断される状態であると受け入れることには強い抵抗を感じることも稀ではない。したがって、医療機関への受診を保護者に勧めること自体が重要かつ困難なテーマである。今回の調査で医療機関への受診率に改善の余地があることが示唆されたことから、今後は市母子保健、幼稚園・保育所等、学校のいずれに対しても、適切な医療との連携のシステムを整備していくことが重要な課題であることが示された。

おわりに

こころの発達総合支援センター開設により、県内の発達障害児者支援体制の整備が促進されている。その効果を今後検証していくためのベースラインとして、本調査の結果は貴重な資料となる。今後、定期的に同様の方法で繰り返し調査を行うとともに、調査対象を広げ、県内の各市町村における発達障害の支援体制の強化に努めたい。

表１　発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握状況（市別、所属別）

大月市

	市母子保健担当 （回収率 100%）	幼稚園・保育園等 （回収率 86.7%）	学　校 （回収率 94.7%）
全対象児	１９９名 （１００％）	１７６名 （１００％）	１９８名 （１００％）
発達の遅れや偏りで 把握されている子ども	１９名 （９．５％）	１７名 （９．７％）	１２名 （６．１％）
医療機関を受診している 子ども	１５名 （７．５％）	１１名 （６．３％）	９名 （４．５％）
保護者に診断が伝えられて いる子ども	８名 （４．０％）	１０名 （５．７％）	５名 （２．５％）

南アルプス市

	市役所 （回収率 100%）	幼・保・通園 （回収率 73.1%）	学校・支援学校 （回収率 100%）
全対象児	７６８名 （１００％）	４４４名 （１００％）	７４６名 （１００％）
発達の遅れや偏りで 把握されている子ども	１４６名 （１９，０％）	２８名 （６，３％）	４３名 （５，８％）
医療機関を受診している 子ども	１８名 （２，３％）	２０名 （４，５％）	２８名 （３，８％）
保護者に診断が伝えられて いる子ども	１０名 （１，３％）	８名 （１，８％）	２３名 （３，１％）

山梨市

	市役所 （回収率 100%）	幼・保・通園 （回収率 66.7%）	学校・支援学校 （回収率 100%）
全対象児	３２０名 （１００％）	１４８名 （１００％）	３３３名 （１００％）
発達の遅れや偏りで 把握されている子ども	９１名 （２８．４％）	２０名 （１３．５％）	３０名 （９．０％）
医療機関を受診している 子ども	７名 （２．２％）	６名 （４．１％）	１２名 （３．６％）
保護者に診断が伝えられて いる子ども	７名 （２．２％）	２名 （１．４％）	１０名 （３．０％）

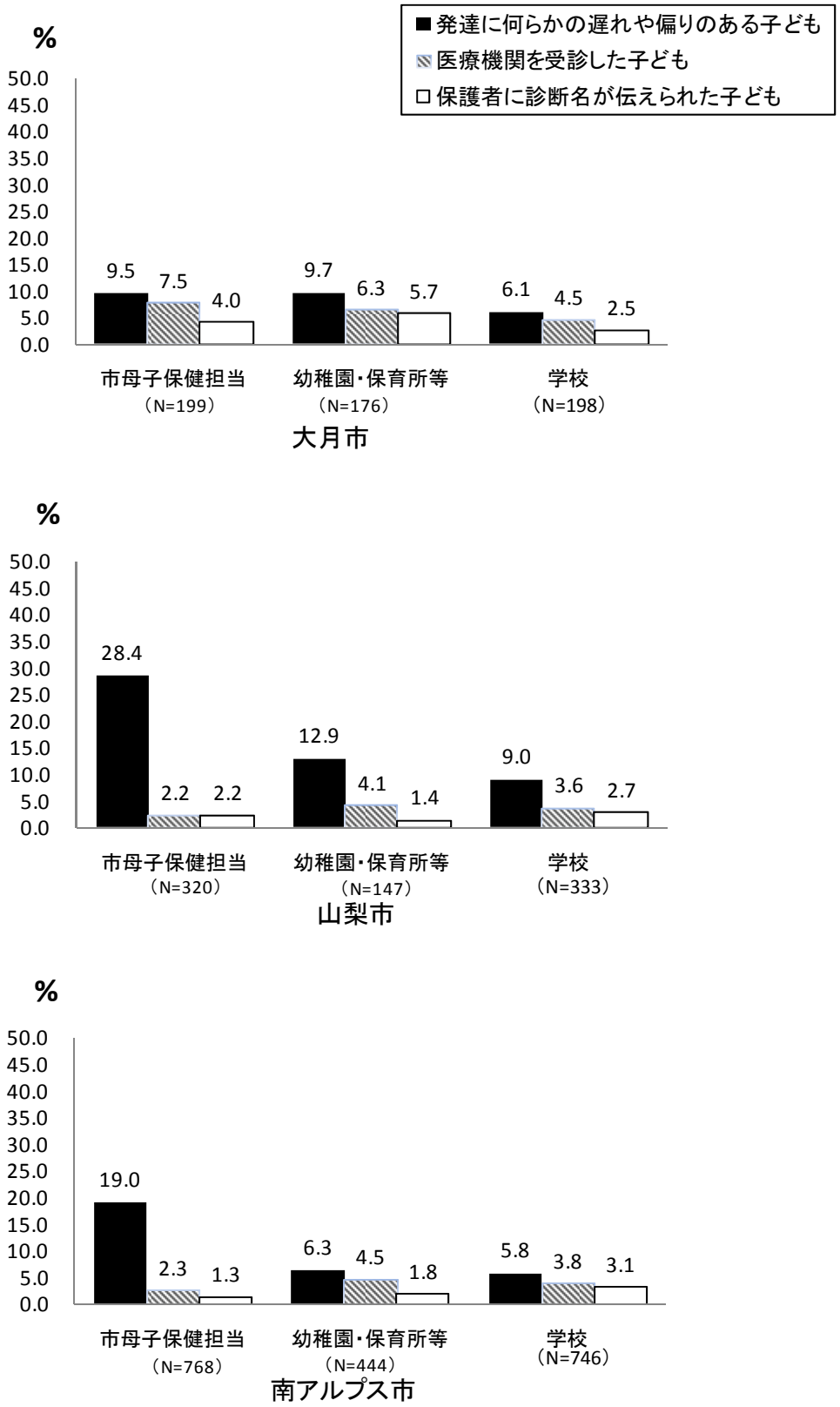

図１ 発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握状況（市別、所属別）

資　料

[市母子保健担当用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）
ご記入いただいた方のお名前（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、貴市町村の母子保健担当が把握しているすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点**とし、それ以前に転出した子どもやそれ以後に転入した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1のうち、発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）として把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

3(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

4(1) 1のうち、医療機関から保護者に診断名が伝えられている子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

5(1) 1のうち、医療機関で何らかの障害があると診断されているが貴機関では障害があるとは考えていない子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、その子に発達障害がないと考える理由（問題ないと思う、本人の特性よりも家庭のしつけの問題が大きい、など自由記述で）をお書きください。

診断名	発達障害がないと考える理由	人数

[市母子保健担当用]

Ⅱ．機関連携についてお尋ねします。

１．貴機関は、障害児者支援を本来業務として行っていますか？　（１．いる　２．いない）

２(1) 貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握したとき、他の関係機関と連携（紹介、問い合わせ、相談、助言、会議など）したことはありますか？　（１．ある　２．ない）

(2) 「ある」の場合、これまでに連携したことのある機関をお書きください。

	機関名（複数回答可）
保　健	
医　療	
福　祉	
教　育	
労　働	
当事者団体	
その他	

３．貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握し、診断を受ける必要があると判断された場合、どちらの医療機関に紹介しますか？

[　　]

４．「こころの発達総合支援センター」を知っていますか？

（1. 知らない　2. 名前だけ知っている　3. 業務内容も大体知っている）

５(1) 今後、「こころの発達総合支援センター」との連携を希望されますか？

（1. 希望する　2. 希望しない）

(2) 連携を「希望する」に○をつけた場合、その具体的な内容をお答えください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

[幼稚園・保育所用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に貴園に在籍し**大月**市に在住していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1のうち、在園当時に発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）として把握していた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

3(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

4(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

5(1) 1のうち、医療機関で何らかの障害があると診断されていたが貴機関では障害があるとは考えていなかった子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、その子に発達障害がないと考える理由（幼稚園では問題ない、本人の特性よりも家庭のしつけの問題が大きい、など自由記述で）をお書きください。

診断名	発達障害がないと考える理由	人数

[幼稚園・保育所用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に貴園に在籍し　**南アルプス**　市に在住していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1のうち、在園当時に発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）として把握していた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

3(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

4(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

5(1) 1のうち、医療機関で何らかの障害があると診断されていたが貴機関では障害があるとは考えていなかった子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、その子に発達障害がないと考える理由（幼稚園では問題ない、本人の特性よりも家庭のしつけの問題が大きい、など自由記述で）をお書きください。

診断名	発達障害がないと考える理由	人数

[幼稚園・保育所用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に貴園に在籍し　**山梨**　市に在住していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1のうち、在園当時に発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）として把握していた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

3(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

4(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

5(1) 1のうち、医療機関で何らかの障害があると診断されていたが貴機関では障害があるとは考えていなかった子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、その子に発達障害がないと考える理由（幼稚園では問題ない、本人の特性よりも家庭のしつけの問題が大きい、など自由記述で）をお書きください。

診断名	発達障害がないと考える理由	人数

[幼稚園・保育所用]

Ⅱ．機関連携についてお尋ねします。

１．貴機関は、障害児者支援を本来業務として行っていますか？　（１．いる　２．いない）

２(1) 貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握したとき、他の関係機関と連携（紹介、問い合わせ、相談、助言、会議など）したことはありますか？　（１．ある　２．ない）

(2) 「ある」の場合、これまでに連携したことのある機関をお書きください。

	機関名（複数回答可）
保　健	
医　療	
福　祉	
教　育	
労　働	
当事者団体	
その他	

３．貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握し、診断を受ける必要があると判断された場合、どちらの医療機関に紹介しますか？

[　　]

４．「こころの発達総合支援センター」を知っていますか？

（1. 知らない　2. 名前だけ知っている　3. 業務内容も大体知っている）

５(1) 今後、「こころの発達総合支援センター」との連携を希望されますか？

（1. 希望する　2. 希望しない）

(2) 連携を「希望する」に○をつけた場合、その具体的な内容をお答えください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

[知的障害児通園施設用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に　**大月**　市に在住し、幼稚園・保育所に通わずに貴園にのみ通所していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

3(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

4(1) 1のうち、医療機関でなされた診断と貴園のその子に対する見方とが異なっていた子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、どのように貴園の見方との間に違いがあったのかをなるべく具体的にお書きください。

診断名	貴園の見方との違い	人数

[知的障害児通園施設用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に　**南アルプス**　市に在住し、幼稚園・保育所に通わずに貴園にのみ通所していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

3(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

4(1) 1のうち、医療機関でなされた診断と貴園のその子に対する見方とが異なっていた子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、どのように貴園の見方との間に違いがあったのかをなるばく具体的にお書きください。

診断名	貴園の見方との違い	人数

[知的障害児通園施設用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）園名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、卒園時に　**山梨**　市に在住し、幼稚園・保育所に通わずに貴園にのみ通所していたすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成22年3月31日時点（卒園時点）**とし、それ以前に転出した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

3(1) 1のうち、在園当時に医療機関から保護者に診断名が伝えられていた子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

4(1) 1のうち、医療機関でなされた診断と貴園のその子に対する見方とが異なっていた子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、どのように貴園の見方との間に違いがあったのかをなるばく具体的にお書きください。

診断名	貴園の見方との違い	人数

[知的障害児通園施設用]

Ⅱ．機関連携についてお尋ねします。

１．貴機関は、障害児者支援を本来業務として行っていますか？　（１．いる　２．いない）

２(1) 貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握したとき、他の関係機関と連携（紹介、問い合わせ、相談、助言、会議など）したことはありますか？　（１．ある　２．ない）

(2) 「ある」の場合、これまでに連携したことのある機関をお書きください。

	機関名（複数回答可）
保　健	
医　療	
福　祉	
教　育	
労　働	
当事者団体	
その他	

３．貴機関で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握し、診断を受ける必要があると判断された場合、どちらの医療機関に紹介しますか？

[　　]

４．「こころの発達総合支援センター」を知っていますか？

（1. 知らない　2. 名前だけ知っている　3. 業務内容も大体知っている）

５(1) 今後、「こころの発達総合支援センター」との連携を希望されますか？

（1. 希望する　2. 希望しない）

(2) 連携を「希望する」に○をつけた場合、その具体的な内容をお答えください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

[学校用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

市町村名（　　）学校名（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）　職種（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、貴校に在籍している　**大月**　市在住のすべての子どもについて記入してください。なお、人数は**平成 22 年4月1日時点**とし、それ以後に転入した子どもは除外してください。

1．該当する子どもは全部で何人ですか。　[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1のうち、発達に何らかの遅れや偏りがある子ども（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）として把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

3(1) 1のうち、発達の何らかの遅れや偏りのことで医療機関を受診している、あるいは受診したことがある、と把握している子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 医療機関を受診していない子どもについて、受診しない理由をご存じであれば教えてください。

理由	人数	理由	人数

4(1) 1のうち、医療機関から保護者に診断名が伝えられている子どもは何人ですか。
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(2) 診断名の内訳を記入してください。把握している診断名をそのままお書きください。

診断名	人数	診断名	人数

5(1) 1のうち、医療機関で何らかの障害があると診断されているが貴校では障害があるとは考えていない子どもはいますか？どちらかに○をつけてください。　（1．いる　2．いない）

(2) 「いる」に○をつけた場合、そのような子どもの人数は何人ですか？
[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

(3) (2)の子どもの診断名の内訳（把握している診断名をそのまま）と、その子に発達障害がないと考える理由（学校では問題ない、本人の特性よりも家庭のしつけの問題が大きい、など自由記述で）をお書きください。

診断名	発達障害がないと考える理由	人数

[学校用]

Ⅱ．機関連携についてお尋ねします。

１．貴校は、障害児者支援を本来業務として行っていますか？　（１．いる　２．いない）

２(1) 貴校で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握したとき、他の関係機関と連携（紹介、問い合わせ、相談、助言、会議など）したことはありますか？　（１．ある　２．ない）

(2) 「ある」の場合、これまでに連携したことのある機関をお書きください。

	機関名（複数回答可）
保　健	
医　療	
福　祉	
教　育	
労　働	
当事者団体	
その他	

３．貴校で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握し、診断を受ける必要があると判断された場合、どちらの医療機関に紹介しますか？

[　　]

４．「こころの発達総合支援センター」を知っていますか？

（1. 知らない　2. 名前だけ知っている　3. 業務内容も大体知っている）

５(1) 今後、「こころの発達総合支援センター」との連携を希望されますか？

（1. 希望する　2. 希望しない）

(2) 連携を「希望する」に○をつけた場合、その具体的な内容をお答えください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

[医療機関用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

医療機関名　（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）
職種　（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、何らかの発達の遅れや偏り（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）のことで貴院に受診歴のある　**大月**　市に在住のすべての子どもについて記入してください。

1．上記に該当する小学2年生は全部で何人ですか。[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1の診断名の内訳を男女別に記入してください。また、保護者に診断を告知しているかどうかもそれぞれ記入してください。診断が確定していない場合には、「未確定」の欄にお書きください。

診断名	人数		保護者に告知した数	
	男	女	男	女
診断未確定				

[医療機関用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

医療機関名　（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）
職種　（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、何らかの発達の遅れや偏り（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）のことで貴院に受診歴のある　**南アルプス**　市に在住のすべての子どもについて記入してください。

1．上記に該当する小学2年生は全部で何人ですか。[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1の診断名の内訳を男女別に記入してください。また、保護者に診断を告知しているかどうかもそれぞれ記入してください。診断が確定していない場合には、「未確定」の欄にお書きください。

診断名	人数		保護者に告知した数	
	男	女	男	女
診断未確定				

[医療機関用]

発達に何らかの遅れや偏りのある子どもの把握に関する実態調査

医療機関名　（　　）
ご記入いただいた方のお名前　（　　）
職種　（　　）

Ⅰ．以下の質問では、平成23年度の小学2年生（平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ）で、何らかの発達の遅れや偏り（肢体不自由、知的障害、発達障害などの障害種別を問わない）のことで貴院に受診歴のある　**山梨**　市に在住のすべての子どもについて記入してください。

1．上記に該当する小学2年生は全部で何人ですか。[　　]人（男[　　]人、女[　　]人）

2．1の診断名の内訳を男女別に記入してください。また、保護者に診断を告知しているかどうかもそれぞれ記入してください。診断が確定していない場合には、「未確定」の欄にお書きください。

診断名	人数		保護者に告知した数	
	男	女	男	女
診断未確定				

[医療機関用]

Ⅱ．機関連携についてお尋ねします。

１．貴院は、障害児者支援を本来業務として行っていますか？　（１．いる　２．いない）

２(1) 貴院で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握したとき、他の関係機関と連携（紹介、問い合わせ、相談、助言、会議など）したことはありますか？　（１．ある　２．ない）

(2) 「ある」の場合、これまでに連携したことのある機関をお書きください。

	機関名（複数回答可）
保　健	
医　療	
福　祉	
教　育	
労　働	
当事者団体	
その他	

３．貴院で発達に遅れや偏りがあると考えられる子どもを把握し、診断を受ける必要があると判断された場合、他の医療機関に紹介しますか？紹介する場合はどちらの医療機関に紹介しますか？

（１．する　２．しない）

紹介する場合の医療機関名　[　　]

４．「こころの発達総合支援センター」を知っていますか？

（1. 知らない　2. 名前だけ知っている　3. 業務内容も大体知っている）

５(1) 今後、「こころの発達総合支援センター」との連携を希望されますか？

（1. 希望する　2. 希望しない）

(2) 連携を「希望する」に○をつけた場合、その具体的な内容をお答えください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

山梨県立こころの発達総合支援センター

〒400－0005　山梨県甲府市北新 1－2－12
TEL：055－254－8631
FAX：055－254－8632
ホームページ
https://www.pref.yamanashi.jp/kokoro-hattatsu/index.html